

これからの図書館のカタチカラ

第3回 データから見る 高浜市の図書館のスガタ

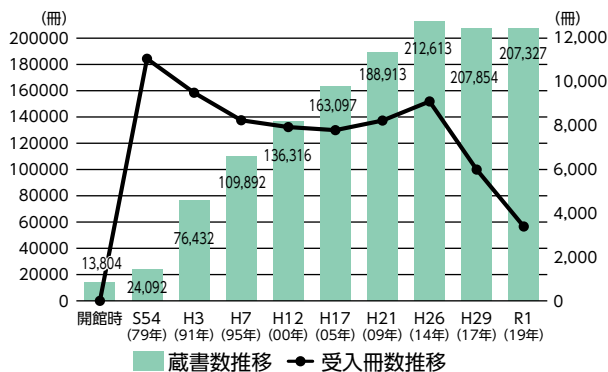
図書館の移り変わり

今回は図書館の統計データから今後のスガタを考えてみます。

高浜市立図書館は、市民の皆さんの「知りたい」「調べたい」にこたえる場としての役割や図書を通じて市民交流の観点から、開館以来さまざまなジャンルの図書を収集し、約1万3千冊であった蔵書は現在約20万冊7千冊あります。

【表1】には棒グラフによる蔵書数の推移と折れ線グラフによる受入冊数（購入と寄贈など）の推移、【表2】には図書館の主なあゆみを抜粋して表しています。

【表1】蔵書推移に関するグラフ



ます。蔵書数を見ると平成26年をピークに横ばい傾向にあります。

高浜市において、これからの時代にふさわしい「図書館のあり方」(役割・必要な機能)について、『これからの図書館のカタチ・チカラ』と題して、『広報たかはま』などをとおして市民の皆さんとともに考えていきます。

今号では図書館のこれまでのあゆみや統計データを用いて図書館の今後のカタチを考えていきます。

出典データ：各年度の図書館概要

【表2】高浜市立図書館のおもなあゆみ

S 54(1979)	4月に現在の図書館がオープン。
H 3 (1991)	図書館の増築工事を実施。1階に学習室(現:えほんの森) 2階に閉架書庫スペースを増築
H 7 (1995)	碧海5市図書館相互利用開始(在住・在学・在勤)
H17(2005)	子ども読書支援室を開設。公募により愛称を「えほんの森」とする。
H21(2009)	図書館に指定管理者制度を導入
R 1 (2019)	図書館開館 40周年

【表3】の蔵書種別割合を見ると一般図書は約63%（うち文学24%、社会科学8%）、児童書・絵本が36%となっており、3分の1以上の蔵書を子ども図書としています。これは平成17年に子ども図書のための部屋として本選びの手助けをしていた

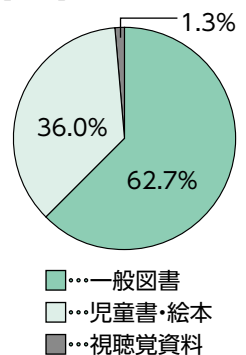
高浜市のつよみとは？

す。これは通路など動線を考えると図書館へ置ける蔵書数については飽和状態（スペースのぎりぎりで）であることから、収蔵と除籍を並行しているためです。

かぎられたスペース・蔵書に有効に活用するうえで、高浜市のチカラ（特徴）とは何かを考えていきます。

【表3】の蔵書種別割合を見ると一般図書は約63%（うち文学24%、社会科学8%）、児童書・絵本が36%となっており、3分の1以上の蔵書を子ども図書としています。これは平成17年に子ども図書のための部屋として本選びの手助けをしていた

【表3】蔵書種別割合



また幼少期には文字や絵で伝えることだけでなく、声で読み聞かせることで印象に残ることもありますよね。読み聞かせ活動の場をつくることにより図書ボランティアの養成にもつながっています。このつよみをいかながら、図書の貸出だけではなく親同士の情報交換など交わるチカラを生みだす、そんな図書館の役割の変化に対応したカタチが今後求められるのです。

ブックスタートや保健センター健診との連携などとおして、子どもがコトバを学んだり、感性を磨いたり、大人になるうえで大切な創造力を豊かにする取り組みで「学びの根っこ」を育み、子どもの健やかな成長を支援しています。

だいているボランティアの読書アドバイザーを配置した『えほんの森』が開設されて以降、子ども読書活動を推進してきたスガタがあるからです。

◆図書館での催しに関しては23ページに記載がある「図書館情報」や図書館公式ホームページ・フェイスブック・ツイッターを確認してください。

◆今後も図書館の取り組みなどについては『広報たかはま』でお知らせします。



▲ホームページ



▲フェイスブック



▲ツイッター

問合せ先 いきいき文化スポーツグループ ☎ 52-1111(内線331)